

## SACステークホルダー・フォーラム議事録

場所：ANYANA Mid Plazaホテル・ジャスミンIルーム（ジャカルタ、インドネシア）

日時：2018年12月5日

時：09:00～13:00

### 出席者

NGO	
1. ジョセフA. H. (FFI)	5. アーマド・ファクルディン (BIDARA)
2. ガンマ・ガルドラ (RECOFTC)	6. ナシヒン・ハサン (BIDARA)
3. スディヤ・イスディコマ (RECOFTC)	7. デウィ・スララガ (CLUA)
4. ティテク・セチャワティ (WCS)	8. アリフ・ブディマン (Winrock)
学術機関	
1. リタウ・ツイブティヤー (LPEM UI)	2. ブディ・インドラ・セティアワン (IPB)
国際機関	
1. アニ・ナウィール (CIFOR)	2. ジャンヌ・シレガー (TFA 2020)
団体／組織	
1. アルヤン・ワルガ・ダラム (APKI)	7. ギタ・シャーラニ (LTK)
2. アニサ・ブディ・ウタミ (APKI)	8. ヌルディアナ・ダルス (ランドスケープ・インドネシア)
3. リアナ・ブラタシダ (APKI)	9. ジャヤディ・ムー・タハ (KAHUTINDO)
4. プルワディ・ソエプリハント (APHI)	10. ズルファンディ・ルビス (IFCC)
5. ケマル・ソエリアウィジャジャ (パートナーシップID)	11. ブディ・サントサ (IBCSD)
6. ヤンティ・トリワディアンティニ (パートナーシップID)	
政府	
1. リスティア・シェリー (Kemenko Perekonomian)	3. クイン・ウェンチャオ (中国大使館)
2. セシリア R (Kemenko Perekonomian)	
民間セクター	
1. アディN. (MUFG)	6. アデ・ユスモナ (BNI)
2. ハディ (MUFG)	7. ヨリー・リナルディ (BNI Syariah)
3. Gregoreus Aryo W (BCA) グレゴレウス・アルヨW (BCA)	8. リファニ・アルザク (BRI)
4. Yenita (BCA) イエニタ (BCA)	9. サイド・パンジ (Orix)
5. Gustianus T (BNI) グスティアヌスT (BNI)	10. ハンディ・チャン (Orix)
SACメンバー&KPMG	
1. ジョー・ローソン (委員長)	4. ジェフ・セイヤー
2. アル・アザール	5. ニール・バイロン
3. エルナ・ウィテラー	6. ルーパ・ダヴェ (KPMG)
エイプリル社／ADR代表	

1. ルシータ・ジャスミン 2. シホール・アリトナン 3. ニョマン・イスワラヨガ 4. ティム・フェントン 5. ダイアン・ノヴァリナ	6. トリアナ・クリサンディニ 7. クリス・ブルクモーア 8. インドラ・ハリム 9. チェリー・タン
<b>開会の辞&amp;議事</b>	
<b>1. SACジョー・ローソン委員長</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>開会を宣し、冒頭でSACの歴史を振り返る——当初SFMP(のちにSFMP2.0に改訂)の監督機関として設立</li> <li>本日の議案を紹介、ゲストに質疑提出を要請</li> <li>透明性の推進と主要プログラム紹介のため、エイプリル社経営陣が初めて招待された点に言及</li> </ul>	
<b>2. KPMG ルーパ・ダヴェ (KPMG持続可能性サービス上級責任者)</b> <i>KPMG PRIの2018年SFMP2.0保証プロセス</i> <ul style="list-style-type: none"> <li>KPMG参加プロセスの目的を紹介——SFMP2.0順守状況把握のための45指標の評価手段としての保証プロセス</li> <li>KPI選考は多段階プロセスであり、主要ステークホルダーやローカルステークホルダーとの協議の上で実施される点を再指摘</li> <li>オンサイト計画視察、ローカルステークホルダーおよびエイプリル社との協議による検証サイト選定、およびステークホルダーのオブザーバー参加による実際の現場検証作業を含めた保証プロセス活動の概略説明</li> <li>2018年保証プロセスのためのサイト視察はPT RAPP (4か所)、パートナーサプライヤ (2か所)、およびオープン市場サプライヤ (2か所) のコンセッションエリアで実施</li> <li>主要観察結果の概括：非順守 (NC) 2点、改良余地あり (OFI) 12点</li> <li>過去のNCおよびOFIへの対処のためのエイプリル社アクションプランの進捗状況報告：過去のNCは全て対処済み (完了)。OFIは4点が依然として未完了</li> </ul>	
<b>3. ティモシー C. フェントン (エイプリル社持続可能性事業部シニアマネージャ)</b> <i>エイプリル社アクションプラン</i> <ul style="list-style-type: none"> <li>2018年SFMP2.0保証プロセスで識別されたNCおよびOFIの解決の進展状況を説明</li> <li>NC#2 (責任ある仕職場活動の実践における個別弱点に関する事項) は、追加トレーニングにより対処</li> <li>OFIへの対処における課題を説明——現在進行中のOFIの大半は2018年末までに完了を目指す。その他は長期的活動が必要</li> </ul>	
<b>質疑応答</b>	
プルワディ・ソエプリ ハント (APHI)	<ul style="list-style-type: none"> <li>泥炭地管理および森林保護関連のエイプリル社活動進展を評価</li> <li>SFMP2.0は、パートナーサプライヤおよびオープン市場サプライヤを含む全サプライヤに適用されるかと質問</li> <li>RKUはMoEFにより改訂されており、改訂版が順守されなければならないと指摘</li> </ul>
ティテク・セチャワティ (WCS)	<ul style="list-style-type: none"> <li>進捗状況の公表および保証プロセス実施に関するエイプリル社のコミットメントを評価</li> <li>主要生物種に関する活動への注力と進展状況の報告を提案</li> </ul>

アニ・ナウィール (CIFOR)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「パートナーサプライヤ」および「オープン市場サプライヤ」の明確化を要求</li> <li>保証プロセスにおける検証サイト選定方法について質問</li> </ul>
ティモシー C. フェントン (エイプリル社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>エイプリル社SFMP2.0は全てのサプライヤが対象と説明</li> <li>サプライヤ・カテゴリーを説明</li> <li>エイプリル社RKUは改訂&amp;承認取得済み、事業活動はRKU完全順守と説明</li> </ul>
ルーパ・ダヴェ (KPMG PRI)	フィールド検証サイトの選定方法論を説明サイトはパーセンテージではなく、リスクアセスメント (GISデータ、社会データ、メディアレビュー) を基盤に選定
ブディ・インドラ・セティアワン (IPB)	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告書に記されている炭素排出測定に関する「正当化可能な方法論」について質問</li> </ul>
ティモシー C. フェントン (エイプリル社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>泥炭地科学チームから詳しく回答させると約束</li> </ul>
リザル・ブカリ (FSCインドネシア)	<ul style="list-style-type: none"> <li>繊維サプライヤへの適用拡大プロセスについて質問</li> </ul>
ティモシー C. フェントン (エイプリル社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>エイプリル社は、インタビュー、現地視察、法的要件およびエイプリル社SFMP2.0のコンプライアンス保証を含む総合的デューデリジェンスプロセスを実施していると説明</li> </ul>

## 議事

### 4. エルナ・ウイテラー (SAC委員)

議事紹介：UN持続可能な開発目標 (SDG)

- 民間セクターと市民団体の協働の利点、およびSDGが有用な基盤となると指摘
- 全セクターのSDG導入は素晴らしく、協働の推進につながる。
- SDG採択におけるエイプリル社の学習過程の紹介をシホール・アリトナンに求める。

### 5. シホール・アリトナン (RT Riau Andalan Pulp and Paper社長)

エイプリル社SDG影響評価

- エイプリル社のSDG採択は、RGEグループの5C原則=Community (コミュニティ)、Country (国)、Climate (気候)、Customer (顧客)、Company (企業) の5者にとって良い) およびエイプリル社の影響力の把握・焦点化の希求が拍車を掛けたと説明
- SDGは、ローカル、国内、グローバルな問題に関するエイプリル社の影響力発揮の有用なプラットフォームとなると指摘
- PwGとの協働による (1) 優先的目標&標的の識別に有用、かつ (2) 影響力把握のベースラインおよび尺度となる調査実施について説明
- 国や州レベルのデータの取り込みを含めた標的の優先順位付け方法論について説明
- 優先順位付けの結果を説明——エイプリル社の重点項目をわかりやすく3カテゴリーに分類：コア目標 (SDG12、13、15)、触媒目標 (SDG3、4、6、17)、寄与度目標 (SDG1、2、8、9、10)
- コア目標と触媒目標に的を絞ること、プロジェクト活動は寄与度目標に沿って進めると説明
- エイプリル社は調査第2段階ベースライン確立および進捗状況測定方法の探索——にあると説明
- 特にローカルレベルにおけるSDGの採択&実施へのエイプリル社コミットメントを重ねて指摘

質疑応答	
ヌルディアナ・ダルス (Landscape Indonesia)	<ul style="list-style-type: none"> <li>政府やNGOとの協議や共同作業は多数あるが、地方レベルの政府との協働の強化が必要と指摘</li> <li>エイプリル社のSDG採択活動についてコメント</li> </ul>
アニ・ナウィール (CIFOR)	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去にTanoto財団により実施されたCSRプログラム、調査結果、およびエイプリル社は提言を受け入れたか否かについて質問</li> </ul>
ブディ・サントサ (IBCSO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>エイプリル社の活動が他企業を刺激しSDG統合につながることを期待すると発言</li> <li>エイプリル社の前進戦略へのSDGの真の統合に期待を表明</li> </ul>
シホール・アリトナ (エイプリル社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Tanoto財団がUNDPと共同で、ローカル開発計画の枠組みとしてのSDGの採択にあたり州計画局を通じて4地方政府を支援したことを説明</li> <li>Tanoto財団によるCSR調査の結果を紹介——CSRプログラムの課題を明確化、SDGはCSR投資の指針となる有望な基盤を提供</li> </ul>
議事	
<p><b>6. ジェフリー A. セイヤー (SAC委員)</b> 議事紹介：景観の保全と回復</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>植栽コンセッションエリア内の保護域は当初有望に見えたが、現実には浸食や劣化しやすいことが判明したと指摘</li> <li>大胆で画期的な「プランテーション1haに対し1haの保護エリア」コミットメントを紹介</li> <li>コンセッションエリア内の重要生物種のモニタリングや調査を実施しており、将来的にも継続すると説明</li> <li>詳細マップ作成や強力な保護管理プログラムを含めたこれまでの進展を紹介</li> <li>スマトラの森林は極度の脅威にさらされており、エイプリル社のRERプロジェクト活動はスマトラの生物種多様性に多大な貢献となっていると指摘</li> </ul>	
<p><b>7. ニョマン・イスワラヨガ (RERプロジェクト対外問題局長)</b> RER (リアウ生態系回復) プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>RERプロジェクトによるカンパール半島およびプラウパダンの劣弱化した森林150,000 haの回復に向けたエイプリル社の活動を紹介</li> <li>RERプロジェクトは、ローカルコミュニティ、政府、森林専門家およびNGOを取りまとめ、景観アプローチによる土地管理を実現していると説明</li> <li>生産—保護モデルを紹介——保護エリア周辺のプランテーションと共に浸食抑止に貢献</li> <li>RERプロジェクトの重要性を指摘——プロジェクトエリアは、スマトラの最大で最後の原生Sundaic低地 (泥炭地) 林であり、巨大な炭素貯蔵庫であり、豊かな生態系機能を持つ</li> <li>森林保護を担うローカルレンジャー養成、生物種多様性&amp;炭素貯蔵評価、運河閉鎖による泥炭地復元、および近隣コミュニティとの協働によるインクルーシブ管理を含めたRERプロジェクトのイニシアチブを説明</li> </ul>	

質疑応答	
ヤンティ・トリワディアンティニ (パートナーシップ ID)	<ul style="list-style-type: none"> <li>エイプリル社の活動についてコメント、他社を活動に巻き込む可能性について質問</li> <li>他社とのパートナーシップ確立への姿勢——地域において、現在以上の大きな役割を担う意向の有無——を問う</li> </ul>
リザル・ブカリ (FSCインドネシア)	<ul style="list-style-type: none"> <li>RERは素晴らしいプロジェクトだが、活動を広く周知させる必要がある。</li> <li>RERとして炭素ストックを活用し、炭素トレーディングに参加する可能性の有無を質問</li> </ul>
アニ・ナウィール (CIFOR)	<ul style="list-style-type: none"> <li>エイプリル社または他企業が利益追求とコスト削減の目的から回復プロジェクトに参加可能とするビジネス戦略の有無について質問</li> <li>エイプリル社の回復活動を高く評価</li> </ul>
Jeffery A. Sayer ジェフリー A. セイヤー	<ul style="list-style-type: none"> <li>このソリューションがスケラブルとなることが理想的という点でヤンティ・トリワディアンティニと同意見、ただし既存システムはスケリングという点で理想的とは言い難い。</li> <li>会合出席者に解決策を模索し続けてほしいと要請</li> </ul>
ニョマン・イスワラ ヨガ	<ul style="list-style-type: none"> <li>パートナーシップの重要性を認め、エイプリル社が景観分野での協働に前向きであると評価</li> <li>景観浸食は全関係者に共通の問題であり、周辺エリアの同業ライセンス所有者との協働が現在の焦点項目と説明</li> <li>RERはRER産のローカルコミュニティ製品（例：ハチミツ）の国内外市場での販促方法を模索しているが、現実には難しいことを認める。</li> <li>長期的に回復プログラムをサポートする有効なビジネスモデルの確立が課題であるが、RERの場合は、エイプリル社の生産—保護モデルに統合されており、生産活動を通じて資金は確保されていると、生態系回復ライセンス所有者向け誘因に期待すると述べた。</li> </ul>
まとめ&閉会の辞	
<p>8. ジョー・ローソン (SAC委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一同に出席と質疑を謝す。</li> <li>SDGは持続可能性における次のステップとなりえるという出席者一同の共通見解を再確認</li> </ul>	